

会派代表質問

### 「大網白里市の治水対策、浸水対策」について

自由民主党の会

北田 宏彦 議員



9月8日台風13号の大雨により、大網駅周辺、永田駅周辺では、大変な浸水被害が発生した。行政の責務として、早急な対応を求めたい。

問 大網駅周辺の浸水対策について

答 金谷川河川改修工事の進捗状況と今後の進め方について伺いたい。

問 用地確保に一定の理解が得られ、来年度の工事再開に向け準備を進めている。

上げについて伺いたい。

増水により、堤防を越水すると決壊につながる。県にかさ上げ対策を強く要望して頂きたい。

答 来年度以降に堤防のかさ上げ工事を予定している。今後、河道内の抜竹を行い、流下能力の向上を図る。南白亀川流域における基準雨量などの見直しについて

令和元年10月の大雨が総雨量約300ミリメートル、今年9月の総雨量約400ミリメートルと数百年に一度の大雨が頻発している。

南白亀川流域の氾濫を防ぐための対策について、関係自治体と連携し、国・県に強く働きかけ、早急に浸水被害対策を進めて頂きたい。

問 災害対策について

南玉地区JR線路敷法面崩落災害について

JRの法面復旧工事の進捗状況と今後の進め方について伺いたい。

9月の大雨による線路敷の崩落により外房線が何日も運休になる事態が発生した。本市が積極的にJRや国、県と協議し、法面修復を求めていくべきではないか。法的な手法も検討すべきではないか。

答 復旧に向けての設計を進めている。なお、JRに対し確実な復旧工事を実施するよう求める。

問 子育て支援について伺いたい。

本市では、若い世代の移住・定住を進めているが、働きながら子育てできる環境づくりが必須である。

年初、1歳児の待機児童が50人以上と聞いたが、現在の状況と来年度の見込みについて伺いたい。

答 利用調整等により来年度4月の待機児童数は減少すると考える。

引き続き待機児童ゼロを目指して

赤目川河川改修工事の早期完成に向け早急な対応を求めて頂きたい。

問 小中川堤防の洗掘箇所状況と修復工事について伺いたい。

答 新たに7ヶ所の護岸の損傷を把握している。損傷が著しい今関橋上流右岸の補修工事を進め、残りも損傷の程度に応じ順次復旧工事を進める。

4年前の修復工事が完了せずに、今回の洗掘が起きている。また、一部堤防は管理されず雑木が生えている。山武土木事務所が河川管理の徹底を強く要望して頂きたい。

問 小中川堤防(長国地先)のかさ

対応を進めて頂きたい。

問 大網駅周辺に民間の認定こども園などの整備を進め、通勤前に子どもを預けて働きに行ける環境づくりを進めてはどうかか。

答 新たな施設の整備は、待機児童の抜本的な解決に有用な手段であるが、今後の人口動態や保育ニーズを見極め検討したい。

問 JR永田駅構内トイレ再開の取り組みについて

JR東日本との協議の進捗状況について伺いたい。

答 JR東日本千葉支社、国土交通省に本市単独で要望書を提出したほか、千葉県JR線複線化等促進期成同盟を通じて要望書を提出した。今後も協議を継続し、トイレの利便再開に努める。

粘り強く折衝して頂きたい。

問 砂田地区における隧道の整備および幹線道路、地区内道路の舗装予定について伺いたい。

答 工事再開は、隧道部分の用地確保や事業費の財政負担などを踏まえ判断したい。

地区内の舗装整備は、関係課と協議の上検討していく。

### 関連質問



問 小中川河川改修の県の対応について。前年度、改修工事の予定が変更され1年遅れになり、そのため今年9月の大雨洪水に対する対応が遅れたのではないか。

答 県に確認したところ、工事は令和4年度末完了予定で着手しましたが、施工箇所が軟弱で掘削法面の一部が崩壊したことから、護岸ブロックの施工を見直す必要が生じたためと伺っております。

再度、地質調査および実施設計に期間を要したことから、工事の完了が今年10月下旬となったことです。

問 駒込、大竹、永田駅周辺を含め、JRの線路と両総用水が防波堤になり、下流への流れが悪化し浸水に至ったのではないか。

答 JR外房線や東金線、両総用水につきましても、大雨による浸水被害との因果関係を特定することは困難なものと考えております。

本市の多くが平坦な地形で、鉄道や道路、用水施設等で分断されていることも事実であり、それらの施設を横断する排水構造物の流れを阻害することのないよう適切な維持管理に努めて参ります。

問 冠水時のマイカー避難場所に、イオン大網白里店の立体駐車場を、市として災害協定を結ぶことができるか。

答 台風などの大雨の影響により浸水による車両被害を認識しており、ますことから、車両の避難場所として使用できるよう、引き続きイオン大網白里店と協議を続けて参ります。

問 瑞穂地区にはコミュニティセンター(CS)がありません。私が議員になってから何回も求めてきた内容です。近年、防災対策として瑞穂西部地区は崖崩れ等の災害に対する避難場所がありません。瑞穂地区の農業従事者や地域住民の要望に応じた施設用地へのCS建設の見込みはどのようになっているのか。

答 瑞穂CSは、地域交流施設用地として取得したという経緯を踏まえ、農業の担い手の育成や地域の融和の場として、研修室や農産品加工室などを想定しております。なお、施設の整備内容につきましては、地域住民の皆様と合意形成を図り、今回ご提言頂きました防災拠点としての整備手法についても、研究して参りたいと考えております。

他の質問では、駅周辺の喫煙マナーについて、マナー向上策を担当課に質問させて頂きました。

個人質問

### 公共交通の充実、給食の無償化など選挙で掲げた公約実現に向けて全力!

日本共産党

佐久間 久良 議員



問 誰もが安全で安心して暮らせるためには、地域交通政策が必要だと考える。地域交通の必要性についてどのように考えているのか。

市長 地域公共交通を確保・維持していくことは、単に人の移動といった交通分野の課題解決にとどまらず、観光振興、健康、福祉、教育、環境など、様々な分野で大きな効果をもたらし、住みやすく活力に満ちたまちづくりの実現に重要なことである。引き続き、市として市民や事業者と連携、協働し、地域公共交通の確保・維持に取り組んでいきます。

問 交通権の保障は、移動が制約されると日常生活や文化的な生活、社会参加が極めて困難となり、生存権そのものが脅かされる。国および自治体は市民の生存を保障する責務を負い、全ての人々に移動を平等に保障する責任を負っている。

交通権は現代社会の移動の権利。交通権の保障は憲法の基本的人権の保障、とりわけ憲法第25条に由来する。

本市でも人口減少は避けられないが、誰もがいきいきと安心して住み続けられるまちづくりのためにも、交通の在り方が大きなポイントとなる。

そのために住民と一緒に、つくる方向を打ち出してほしい。

市長 利用者となる皆様からの地域公共交通に対する声に耳を傾け、持続可能な地域公共交通の確保につなげていきたい。

問 大きく市民参加を呼びかけるようには受け止められなかった。市民の意見を広く収集し、市民が本望んでいるものに仕上げることができると述べておきたい。

(この他、国民健康保険について質問した。)

問 無償化は、いまや全国の流れになっている。学校給食を無償化したところでは多くの歓迎の声が上がっている。このことは、文科省の実態状況にまとめられている。

九十九里町では無償化に向けて進んでいる。無償化には2億円ぐらいいと聞いているが、市の予算で見れば1パーセントぐらいいだ。やればできない金額ではない。

市長 現状、市では、全児童・生徒の学校給食費の無償化というものは考えていない。

2億円は安い金額ではないが、子どもの未来を育むもので豊かにする、それを保障していくものだ。ましてや憲法第26条第2項では、義務教育はこれを無償にする。確かに学校給食法では、食材費は保護者の負担が望ましいことになっているが、給食費を無償化することが法律に触れるということではない。

だから全国で広がっている。これは実現させるべきだ。

やる気になり、俯瞰的に見れば、財源はいくらでも確保することができると述べておきたい。

問 無償化は、いまや全国の流れになっている。学校給食を無償化したところでは多くの歓迎の声が上がっている。このことは、文科省の実態状況にまとめられている。

九十九里町では無償化に向けて進んでいる。無償化には2億円ぐらいいと聞いているが、市の予算で見れば1パーセントぐらいいだ。やればできない金額ではない。

市長 現状、市では、全児童・生徒の学校給食費の無償化というものは考えていない。

2億円は安い金額ではないが、子どもの未来を育むもので豊かにする、それを保障していくものだ。ましてや憲法第26条第2項では、義務教育はこれを無償にする。確かに学校給食法では、食材費は保護者の負担が望ましいことになっているが、給食費を無償化することが法律に触れるということではない。

だから全国で広がっている。これは実現させるべきだ。

やる気になり、俯瞰的に見れば、財源はいくらでも確保することができると述べておきたい。